

かけはし



発行：峡南教育事務所地域教育支援スタッフ

所在地：南巨摩郡富士川町鯉沢771-2

TEL：0556-22-8154 FAX：0556-22-8144

HPでも御覧になれます。URL <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html>

★峡南地区「子育て学習会」の開催★

山梨県立大学教授 高野牧子先生

南ブロック（1月21日：身延町総合文化会館）、北ブロック（1月28日：富士川町民会館）の2度にわたって、峡南地区「子育て学習会」を開催しました。講師は昨年から引き続き、山梨県立大学教授、高野牧子先生をお迎えして、「心・ふれあう・動きでコミュニケーション～親子で楽しく身体表現遊び～」というテーマで行われました。

2歳児はギャングエイジとも呼ばれて、「イヤイヤ」が始まる時期。親子のコミュニケーションにギャップが生じやすくなります。子どもはいっぱい伝えたいことがあっても、言葉にして伝えることが出来ず、身体を使って伝えようとしていることに気づいてあげる必要があります。コミュニケーションの手段は、①バーバルコミュニケーション（言葉によるコミュニケーション）②ノンバーバルコミュニケーション（身体表現によるコミュニケーション）があります。言葉によるコミュニケーションの際、否定語「ぐずだなあ」から、肯定語「慎重だね」に言いかえをしてみてください。そして、あなたメッセージ「～～～しなさい」から、私メッセージ「お母さんは～～～と思っているの。〇〇ちゃんは？」を心がけてください。身体表現とは、こころとからだを一体として捉え、感じたこと、考えたこと、伝えたいことをからだを使って表現すること。からだを通じた理解とコミュニケーションでのポイントは①ふれあうことの大切さ…皮膚への刺激の重要性②動きのキャッチボール…キーワードは模倣。（以上、講義の概要）

講義の後に、保育現場や家庭で楽しめる身体表現遊びを数多く紹介していただきました。「はじめははじまるよ」「そうっとさわってみようかな」で心身をほぐし、動き遊びの「ちっくんハチさん」「ハイタッチ・ゲーム」「ピヨヨ～ン・ゲーム」、親子体操「お母さんのお舟できるかな」「お母さんのひざに立ってみよう」「お母さんのトンネル」「そり滑り」。音楽にあわせて「バスにのって」、表現遊びの「動物ランド」、親子ダンスの「ぱんパンダ」。先生の軽快な言葉かけで、参加者全員で楽しく身体表現遊びを学んでいきました。終始和やかな雰囲気の中、心地よい汗を流し、1時間20分ほどの時間が短く感じられました。参加された方々から、「家に帰って家族とまた楽しみたいです」、「楽しく体を動かさせてよかったです」などの声が多く聞かれ、有意義な学習会となりました。



高野牧子先生



かけはし148号の誌面

- P1 子育て学習会
- P2 連載特集 峡南地域の食材 No.19
- P3 峡南地域中学生思春期体験学習、増穂商業高校子育て体験学習
- P4 ことぶき勸学院学習活動全体発表会、実践的防災教育推進事業成果発表会

★★連載特集 『峡南地域の食材』No. 19

早川町「エゴマ」と食改さん

早川町は県の南西部に位置し、日本で最も人口の少ない町、南アルプスの山々に囲まれた自然豊かな町です。昨年の9月30日に町制施行60周年を迎えました。町のほぼ中央を、町名の由来にもなった富士川の支流早川が貫流しており、大小の滝や溪谷が、美しい溪谷美を作り出しています。新緑や紅葉の時期は特に美しく、周囲を囲む山々の四季折々の変化は鮮やかで、見るものの目を楽しませてくれます。また、開湯1300年の歴史を有する「西山温泉」をはじめ、町内各地に温泉が点在し、温泉ファンを魅了しています。

【エゴマ】

エゴマは、シソ科の一年草で、日本では古くから栽培されており、エゴマ種実は縄文中期に長野県で検出されています。エゴマの中には α -リノレン酸という必須脂肪酸が入っていて、体内に入るとEPAに一部変換されます。このEPAは血管の万能薬とも呼ばれていて、厚生労働省が11年間日本人4万人を対象に行った研究ではEPAや青魚に入っているDHAを沢山摂っている人を比較すると動脈硬化によって起こる心筋梗塞が65%も減ったという結果が出ています。また、認知症予防や美容に効果が期待できると学会で発表されたこともあって、大変注目されています。エゴマは収穫した実の石やごみを取り除くのに大変骨が折れるそうです。早川町でも昔から栽培されていて、炒ったものをすって、薬味やお餅にまぶして利用されています。



【早川町の食改さん】

早川町食生活改善推進委員会は、近藤節子会長を含め、現在26名の会員で活動しています。

今年度の目標は、食生活に関する国及び県又は町の施策の遂行に協力するとともに、食生活改善推進員の資質の向上を図り、町民の食生活改善をすすめ、健康の増進に寄与することとしています。今年度の重点目標は、①保健所で行う管内推進員伝達研修会に代表者が出席し研修を受け、これを地域において伝達講習会をする。②健康まつり等に協力し、栄養の普及を図るとともに地域に見合った事業展開ができる様に努めることです。これらの目標を達成させるために、地域の食材を使っての健康料理発表会、各集落での伝達講習会、健康まつりや健診時の健康料理の試食提供、健康情報の提供、男性の料理教室、町の行事に協力を行いました。



男性の料理教室の様子

【食改さん調理実習】

2月6日(月)に、食改さんの調理実習が早川町保健センターで行われました。近藤節子会長をはじめ7名が参加したこの調理実習では、エゴマを使った「ぼた餅」と「おひたし」の2品を作りました。調理しながら、それぞれの経験を持ち寄って活気ある雰囲気の中、作り上げていきました。出来上がった、ぼた餅とおひたしを全員で試食しましたが、口々に「美味しい」と言う声が聞かれました。



「ぼた餅」の作り方…まず、温めたフライパンにエゴマを入れて弱火で炒ります。ここで、香ばしい匂いとプチプチとエゴマが弾けるような音が鳴ったところで、すり鉢に入れて擂っていきます。そして、その中に三温糖と塩を混ぜ合わせます。最後に、餅米にきびを加えて炊きあげたお餅にまぶして完成です。



平成28年度峡南地域中学生思春期体験学習

今年度も峡南地域の全ての中学校で、思春期体験学習が実施されました。この事業は、学校・町・保健福祉事務所・教育事務所の4者が協力して実施しています。多感な中学生の時期に子育てについて考え、赤ちゃんとのふれあいを通して生命の尊さを学ぶことを目的として、各校の教育課程にも位置づけられ、今年で18年目を迎えました。11月の三珠中による体験学習を最後に、峡南地域全9校の思春期体験学習が終了しました。この体験学習を実施するにあたり、各校の担当者、各町の福祉保健課・子育て支援課・いきいき健康課、峡南保健福祉事務所の保健師さんが中心となり、綿密な打ち合わせを重ねていき、指導方法や準備品の確認、協力してくれる母子との連絡調整、講話や体験学習の指導など、精力的に進めてくださいました。また、この思春期体験学習のために多くのお母さん・お父さん方に協力していただきました。中学生のために大事な我が子を持って会場まで足を運んでいただいたことに、心から感謝申し上げます。事後アンケート調査の結果をみても、体験学習の意義の深さをあらためて実感するとともに、来年度も引き続き各学校において教育課程に位置づけて取り組んでいただきたいと思います。

《事前学習・プレ実習風景》



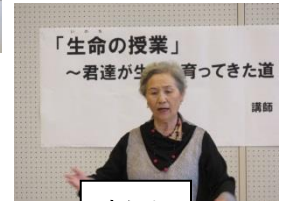
早川中



鍼沢中



市川中



南部中



市川南中

《体験実習風景》



増穂中



身延中



早川中



南部中



身延中



鍼沢中



市川中



三珠中



六郷中



市川南中

増穂商業高校 子育て体験学習

増穂商業高校（川手正昭校長）でも、高校3年生を対象に6年目の「子育て体験学習」を実施しました。高校での継続的な実施は全国でも珍しい取組です。それは、ひとつに全県一区のため地域との連携がとりづらいからだと言われています。しかし、同校では峡南地域の全中学校で思春期体験学習を実施していることを踏まえ、中学・高校と「生命の大切さ」を継続して学習させたいとの視点から、富士川町子育て支援課と連携を図り、教育課程に位置づけて実施しています。グループワークを積極的に取り入れるなど、毎年内容の改善を図って効果的な学習を行っています。生徒達は出産・育児が中学生に比べて近い将来のことと受け止め、真剣な表情で取り組んでいました。



ことぶき勸学院 学習活動全体発表会



1月27日(金)、コラニー文化ホールにおいて平成28年度学習活動全体発表会が開催されました。これは、勸学院での学習や諸活動をまとめ、発表することにより、相互理解を深めるとともに、勸学院での活動の質的向上や卒業後の活動継続を促すことで、知識を活かし地域に貢献できるリーダーの育成を目指すこと



をねらいに、県内6教室の生徒さんが集まって行われているものです。この日、峡南教室は2年生を代表して若狭政雄さん、北村正仁さんの二人が「これからの人生を考える～沖縄慰霊の旅～」と題した発表を行いました。北杜市出身で沖縄の女子教育に尽力された八巻太一氏の教え子たちが、沖縄戦の際に、「梯悟隊」と呼ばれた学生看護隊で数多く亡くなっております。その慰霊塔として建立された「梯悟之塔」への慰霊をはじめ、普天間基地、辺野古など平和を考えさせられる各所を巡った内容でした。岩下清彦副学院長から「平和について、地域を担う子どもたちに伝えていってほしい。」と講評をいただきました。

実践的防災教育推進事業 成果発表会

1月17日(火)、桃源文化会館にて、平成28年度の「実践的防災教育推進事業 成果発表会」が開催されました。発表会において、富士川町立増穂小学校・増穂中学校の取組事例の発表があり、予想される地震などに備えた喫緊の課題となる防災教育や防災指導において新たな課題が明らかになったことと、それを踏まえたより有効な指導や教育の在り方についての報告がありました。

事例発表に立った増穂小学校の佐野三代司教頭は、災害における危険を予測し、回避する能力を高めるとともに、自らの命を自ら守ろうとする行動が状況においてとれる児童の育成を目指す実践を進めてきた、と発表しました。具体的には、緊急地震速報受信システムを取り入れたより実践的な予告なしの避難訓練や担任の判断による予告なしの5分間避難訓練を行い、実践的な避難行動を身に付けました。また、熊本地震の直後、熊本に派遣された養護教諭が、派遣先での経験をもとに6年生に授業を実施し、ボランティア活動や共助の意識を育みました。取り組みをとおして、主体的に避難行動ができる児童が増えてきたことが成果です。



増穂中学校の内田浩教頭は、防災に対する職員や生徒の意識を高め、地域と連携した取組が必要となるため、目標を掲げて実践を進めてきました。具体的には、緊急地震速報受信システムを取り入れた、より実践的な予告なしの訓練を実施し、課題に対して事後指導を行った実践や町防災課のリーダーを招いて防災に関する研修を行いました。



取り組みをとおして、教員や生徒が防災に対する意識が高まったことや安全を確認して、主体的に避難することができる生徒が増えたことが成果です。

さらに訓練後には防災アドバイザーとして招いている秦康範 山梨大学准教授から指導助言を得るとともに、「自ら危険を予測し、回避する能力を高めること」の大切さを学びました。

このほか「防災ボランティア」の意義、防災教育の取組など、多岐にわたって成果が報告されました。

・ご愛読ありがとうございました・

地域教育情報誌「かけはし」をご愛読いただき、心より御礼申し上げます。
これからもご愛顧いただけますようお願いいたします。